

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成30年5月25日

【事業年度】 第70期(自平成29年3月1日至平成30年2月28日)

【会社名】 株式会社ダイケン

【英訳名】 DAIKEN CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藤岡 洋一

【本店の所在の場所】 大阪市淀川区新高二丁目7番13号

【電話番号】 06 6392 5551(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 北脇 昭

【最寄りの連絡場所】 大阪市淀川区新高二丁目7番13号

【電話番号】 06 6392 5551(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 北脇 昭

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
決算年月		平成26年2月	平成27年2月	平成28年2月	平成29年2月	平成30年2月
売上高	(千円)	10,515,143	10,908,519	10,770,011	10,403,694	10,674,050
経常利益	(千円)	807,051	714,724	496,854	488,991	400,430
当期純利益	(千円)	475,713	433,682	349,441	312,902	266,895
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)					
資本金	(千円)	481,524	481,524	481,524	481,524	481,524
発行済株式総数	(株)	5,970,480	5,970,480	5,970,480	5,970,480	5,970,480
純資産額	(千円)	10,835,227	11,243,493	11,482,816	11,832,944	12,058,944
総資産額	(千円)	13,876,653	14,557,490	14,636,616	15,023,326	15,196,970
1株当たり純資産額	(円)	1,844.44	1,914.15	1,955.27	2,014.89	2,053.44
1株当たり配当額 (内、1株当たり 中間配当額)	(円) (円)	14.00 ( )	16.00 ( )	14.00 ( )	15.00 ( )	15.00 ( )
1株当たり当期純利益	(円)	80.97	73.83	59.50	53.28	45.45
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)					
自己資本比率	(%)	78.1	77.2	78.5	78.8	79.4
自己資本利益率	(%)	4.5	3.9	3.1	2.7	2.2
株価収益率	(倍)	6.82	8.67	10.17	14.25	18.33
配当性向	(%)	17.3	21.7	23.5	28.2	33.0
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	591,010	456,842	783,448	595,837	587,858
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	201,501	377,093	164,681	335,323	415,150
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	82,563	82,873	94,944	81,570	89,021
現金及び現金同等物 の期末残高	(千円)	2,007,862	2,006,183	2,859,041	3,038,594	3,122,116
従業員数 〔外、平均臨時 雇用者数〕	(名)	306 〔49〕	303 〔59〕	302 〔65〕	304 〔65〕	306 〔60〕

(注) 1 当社は、連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 持分法を適用した場合の投資利益については、損益等からみて重要性の乏しい関係会社のみであるため、記載を省略しております。

4 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5 平成27年2月期の1株当たり配当額16円には、創業90周年記念配当2円を含んでおります。

6 平成28年2月期の1株当たり配当額14円には、特別配当2円を含んでおります。

2 【沿革】

年月	概要
大正13年 4月	創業者藤岡京一が藤岡製作所〔大阪市東淀川区(現淀川区)〕を創業。
昭和23年 3月	金属製品の製造、加工及び販売を目的として、株式会社植製作所〔大阪市東淀川区(現淀川区)〕を設立。
昭和24年10月	商号を大阪建築金物製造株式会社に変更。
昭和27年 7月	藤岡製鋼株式会社〔大阪府豊中市、平成 4年 3月当社に吸収合併される〕を設立。
昭和30年 7月	ダイケンシャッター株式会社〔大阪市東淀川区(現淀川区)(旧三光鋼板工業株式会社)平成 4年 3月当社に吸収合併される〕を設立。
昭和37年 8月	大建鋼業株式会社〔北海道室蘭市、平成 4年 3月100%子会社となる〕を設立。
昭和37年10月	東京都文京区に東京営業所(現東京支店 昭和58年11月、墨田区に移転)を設置し、関東地方における営業体制の強化を図る。
昭和38年 4月	商号を株式会社ダイケンに変更。
昭和38年12月	千葉県八千代市に千葉工場を新設し、鋼製組立物置の開発製造に着手。
昭和46年 2月	千葉工場を千葉県佐倉市に移転し、エクステリア関連製品の開発及び製造の強化を図る。
昭和47年11月	札幌市豊平区(現清田区)に札幌営業所(現札幌支店)を設置し、北海道における営業体制の強化を図る。
昭和50年 3月	宮城県仙台市に仙台営業所を設置し、東北地方における営業体制の強化を図る。
昭和50年 3月	岡山県岡山市に岡山営業所(昭和59年 7月現広島営業所として移転)を設置し、中国四国地方における営業体制の強化を図る。
昭和50年 4月	本社営業課を大阪営業所(現大阪支店)に組織変更し、近畿地方における営業体制の強化を図る。
昭和50年10月	福岡県糟屋郡志免町に福岡営業所(平成21年 3月福岡市博多区に移転)を設置し、九州地方における営業体制の強化を図る。
昭和51年 6月	愛知県一宮市に名古屋営業所(現名古屋支店)を設置し、中部地方における営業体制の強化を図る。
昭和52年12月	埼玉県上尾市に埼玉出張所(現埼玉営業所 平成元年 8月大宮市に移転)を設置し、北関東地域における営業体制の強化を図る。
昭和54年 3月	神奈川県大和市に神奈川出張所(現神奈川営業所 昭和63年 3月横浜市西区に移転)を設置し、南関東地域における営業体制の強化を図る。
平成 4年 3月	株式会社ダイケンとグループ会社の藤岡製鋼株式会社及びダイケンシャッター株式会社の2社が経営基盤の強化と生産性を向上するために合併。十三工場、兵庫工場、岡山工場及び津山工場の4工場と賃貸マンション「アメニティ新高」を継承。
平成 4年 7月	大建鋼業株式会社の営業の全部を譲受け、経営基盤を拡充。室蘭工場を継承。
平成 6年 1月	十三工場において、工場棟、事務所棟を新改築し、生産性の向上を図る。
平成 6年 9月	室蘭工場において、工場棟を増改築、事務所棟を新築し、塗装、溶接の自動ラインを設置。
平成 9年 2月	当社株式を店頭登録銘柄として日本証券業協会に登録。
平成11年 1月	本社敷地内において、倉庫を新築し、材料及び製品物流の合理化を図る。
平成12年 5月	子会社株式会社ディックワンを設立。
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
平成20年10月	千葉工場を千葉県富里市に成田工場として移転し、内製化の強化及び物流コストの低減を図る。
平成22年 4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所 J A S D A Q市場に上場。
平成22年10月	大阪証券取引所 J A S D A Q市場、同取引所ヘラクレス市場及び同取引所 N E O市場の各市場の統合に伴い大阪証券取引所 J A S D A Q(スタンダード)に上場。
平成25年 7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所 J A S D A Q(スタンダード)に上場。
平成29年 3月	神奈川営業所と西東京出張所を移設統合し、東京都町田市に西関東営業所を設置。関東地域における営業体制の強化を図る。

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社1社により構成されております。

当社グループは、建築金物、外装用建材、エクステリア製品等の製造、販売を行っており、また、製品の施工・取付工事を行っております。さらに、不動産賃貸事業を営んでおります。

当社及び当社の関係会社の事業における当社及び関係会社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、以下に示す区分は、セグメントと同一の区分であります。

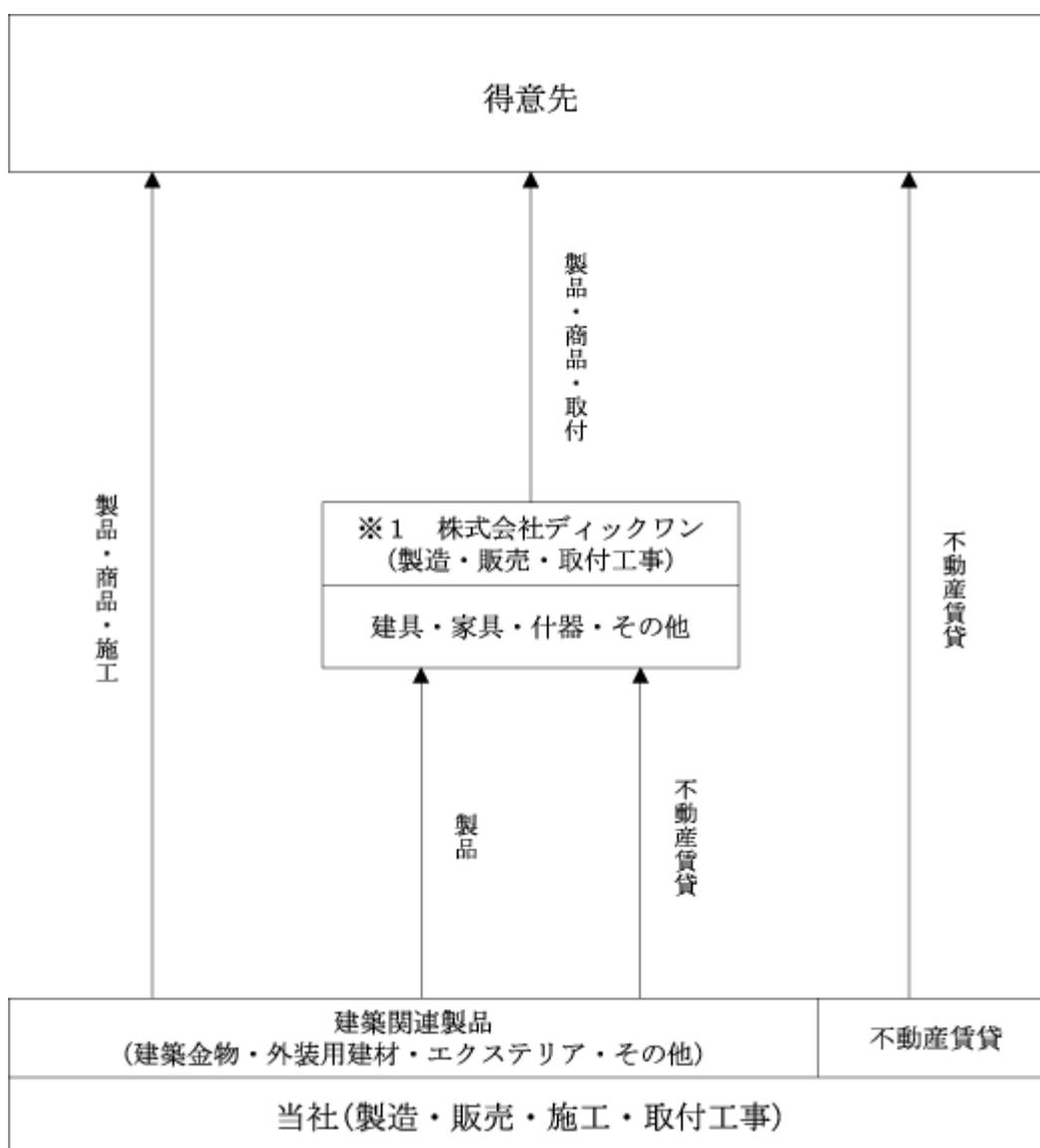
#### 建築関連製品

ドアハンガーなどの建築金物、物置などのエクステリア製品やアルミ型材を利用した外装用建材などの製造販売及び取付を行っております。

#### 不動産賃貸

単身者向け賃貸マンション及び貸店舗を運営しております。

事業の系統図は次のとおりであります。



(注) 1 非連結子会社

#### 4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

#### 5 【従業員の状況】

##### (1) 提出会社の状況

平成30年2月28日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
306 ( 60 )	42.2	16.07	5,688

セグメントの名称	従業員数(名)
建築関連製品	294 ( 57 )
不動産賃貸	( )
全社(共通)	12 ( 3 )
合計	306 ( 60 )

- (注) 1 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。  
 2 臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。  
 3 平均年間給与は、賞与を含んでおります。  
 4 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

##### (2) 労働組合の状況

当社の労働組合は、ダイケン千葉労働組合(存続会社)、ダイケンハードウェア労働組合(旧藤岡製鋼労働組合)及びダイケン室蘭労働組合(旧大建鋼業労働組合)の3労組で構成されております。

平成30年2月28日現在、組合員数は、83名であり、上部団体には属していません。

労使関係は、円満に推移しており、特記すべき事項はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当事業年度におけるわが国経済は、企業収益の改善に伴い、緩やかな回復基調にあるものの、個人消費にしましては、社会保険料の増加などによって実質所得の改善が緩慢であり、力強さを欠くものとなりました。また、海外におきましても、米国の経済政策の動向や中東、アジア地域における地政学的リスクの高まりなど、先行き不透明な状況で推移しました。

建築金物業界におきましては、インバウンド関連の投資などにより、非住宅建築の着工は比較的堅調に推移しました。しかしながら、新設住宅着工戸数については、相続税改正を背景に好調であった賃貸物件も減少に転じ始め、住宅ローン減税や金利優遇政策の効果が一巡したことなどから前年度を下回りました。また、運搬費の高騰や原材料価格の高止まりの状況は依然として続いており、メーカー間の競争激化の中、厳しい経営環境となりました。

このような中、当社は、平成29年3月に西関東地区における業務の効率化や販売力強化を図るため、東京西出張所と神奈川営業所を統合し、西関東営業所を設置しました。また、東京と大阪のショールームを活用した説明会を重ねて得意先との連携を高めるとともに、機械工具や農業資材などのルートへの浸透に取り組んでまいりました。

生産部門におきましては、成田工場と千葉工場の一体運用による生産効率の向上や関東地区の受注等への対応力強化を図りました。また、エネルギー効率を高めるため、工場などの施設照明をLED照明へ切り替えるなどの設備投資を行ってまいりました。

以上の結果、当事業年度の売上高につきましては、前事業年度比2.6%増の106億74百万円となりました。利益面では、原材料の高騰と人手不足を原因とする運搬費の増大などから、営業利益は前事業年度比18.9%減の3億91百万円、経常利益は前事業年度比18.1%減の4億円となりました。当期純利益は前事業年度に比べ14.7%減の2億66百万円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(セグメント売上高)：当事業年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)	構成比(%)
建築関連製品	10,508,755	102.6	98.5
不動産賃貸	165,294	105.8	1.5
合計	10,674,050	102.6	100.0

#### (建築関連製品)

建築関連製品につきましては、外装用建材関連が同業他社との価格競争などにより厳しい状況となりましたが、建築金物関連やエクステリア関連の製品の販売は好調であり、比較的堅調に推移しました。

建築金物関連では、ドアハンガーにつきまして、マテハン部品の専用カタログの作成など積極的なPR活動を展開したことで、工場の設備改善や農業資材関係への利用が高まり好調に推移しました。

エクステリア関連では、戸建用宅配ボックスが宅配業者の再配達問題などの社会的ニーズの高まりから、上半期におきまして大きく伸長しましたが、下半期におきまして多くの同業他社の参入もあり、価格競争が激化したため、苦しい状況となりました。一方で、集合住宅向け宅配ボックスは堅調に推移しました。また、モデルチェンジにより需要を喚起できた物置や機種の新規の拡充を図ったごみ収集庫は、好調に推移しました。

その結果、売上高は105億8百万円(前事業年度比2.6%増)となりました。しかしながら、高騰する運搬費等の影響から販売費が増大したため、セグメント利益(営業利益)は6億11百万円(前事業年度比14.3%減)となりました。

(不動産賃貸)

不動産賃貸関連につきましては、収益の主力でありますワンルームマンションは、建物、設備の経年劣化への対応による営繕費の増大や付加価値に関する投資などの課題があるものの、学生等の単身者世帯の需要を引き続き得ており、高い稼働率にて安定した収益を確保しました。

また、法人向けテナント契約につきましても安定した収益を維持しております。

その結果、売上高は1億65百万円(前事業年度比5.8%増)、セグメント利益(営業利益)は88百万円(前事業年度比26.2%増)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ83百万円増加し、31億22百万円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は5億87百万円(前事業年度は5億95百万円の収入)となりました。これは主に、税引前当期純利益3億98百万円、減価償却費3億61百万円を計上したことで資金が増加したものの、たな卸資産の増加額1億96百万円を計上にしたことで資金が減少したことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は4億15百万円(前事業年度は3億35百万円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出3億74百万円及び無形固定資産の取得による支出17百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は89百万円(前事業年度は81百万円の支出)となりました。これは主に、配当金の支払額88百万円によるものです。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

セグメントのうち、建築関連製品において生産活動を行っており、当事業年度における生産実績を示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
品目		
建築金物	2,822,805	107.9
外装用建材	1,103,195	102.8
エクステリア	2,332,630	109.4
その他	63,826	133.9
建築関連製品計	6,322,457	107.7

(注) 1 金額については、製造原価で記載しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注実績

セグメントのうち、建築関連製品の外装用パネルについては、受注生産を行っており、当事業年度における受注実績を示すと次のとおりであります。

品目	受注高		受注残高	
	金額(千円)	前年同期比(%)	金額(千円)	前年同期比(%)
外装用建材 外装パネル	85,421	110.4	6,335	75.4

(注) 1 当社は、外装用建材の外装パネル以外の品目は見込生産で行っております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 販売実績

当事業年度における販売実績をセグメント別に示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
品目		
建築金物	4,551,375	104.0
外装用建材	1,972,224	102.1
エクステリア	2,999,342	101.9
その他	985,813	99.0
建築関連製品計	10,508,755	102.6
不動産賃貸計	165,294	105.8
合計	10,674,050	102.6

(注) 1 主な相手別の販売実績及び総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前事業年度		当事業年度	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
杉田エース株式会社	2,003,360	19.3	2,155,884	20.2

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末において当社が判断したものであります。

#### (1) 会社経営の基本方針

当社は、大正13年(1924年)の創業以来、金属製品の製造販売を通じて「社会のお役に立たせていただく」ことを経営の理念とし、常に消費者の立場に立った製品開発を行い、消費者のニーズに応えられる製品の提供に務めることを経営の基本としてまいりました。

近年、消費者は、製品の機能性だけでなく、環境との調和、美的感覚、快適性、安全性などを、より一層要望されるようになっており、当社製品にかけられる期待も大きいものがあります。当社といたしましては、開発・製造から販売への一貫体制の強化を図り、今後とも、さらに優れた製品を提供し、社会に貢献し続ける創造開発型の企業であることを基本方針とし、これからも、製品の安全性を重視し、安心して取引していただける信頼性の向上に努めてまいります。

#### (2) 目標とする経営指標

当社では、ビジネスモデルの精度向上、収益性、投資効率等の観点から新製品売上高成長率、売上高経常利益率、株主資本当期純利益率(ROE)を重要な経営指標ととらえ、事業戦略の骨子を組み立てるとともに諸施策を実施しております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社は、上記経営方針に基づき、今後ますますニーズが高まる省エネルギー対策、高齢化社会におけるバリアフリー対策、セキュリティ対策を視野に入れた新製品の開発を進めることに注力してまいります。また、建築金物、外装用建材、エクステリア商品等の従来製品におきましても、安全性向上、施工性向上、廃棄物低減を進め、より一層改良された製品作りを推進し、総合的な品質向上によって社会に貢献してまいります。

#### (4) 会社の対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、東京オリンピック・パラリンピックに関連する建築需要が続くものと期待されますが、2019年10月に消費増税を控えた政策の動向など不透明感の強い状況もみられます。また、相続税の改正による効果が一巡したことや人口減少を背景に、好調であった賃貸住宅などの着工戸数は弱含みで推移していくとみられ、貸家など新設住宅着工戸数は下方傾向となることが想定されます。また、材料価格の変動や厳しさを増す運送事情も相まって、建築金物業界に関連する投資の動向につきましては、依然として予断を許さない状況が続くと予想されます。

このような経営環境の下ではありますが、今後も高い建築需要が見込まれる関東圏における営業力の強化を引き続き進めるとともに、その需要に対応するため、成田工場と千葉工場の一体運用による生産の効率化、納期対応の強化を実施してまいります。高騰する材料価格や運搬費、為替の問題など難しい課題に対しても、最適化を図ってまいります。

また、高齢化社会や環境問題、住宅高機能化など当社製品群の周辺ニーズや市場価格の変化に適時に対応できるよう、ユーザーの立場に立った商品開発の強化を図るとともに、生産及び調達方法や販路を見直してまいります。

#### 4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、本項においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当事業年度末現在において判断したものであります。

##### (1) 経済動向による影響

当社の事業は、国内の建設及び住宅建築における市場に大きく依存しており、例えば企業収益の悪化により企業の設備関連投資が減少した場合、政府及び地方自治体の財政状態の悪化により公共投資が削減された場合、人口動態が少子化傾向を強めつつあり、それが将来の世帯数の減少となり住宅着工の減少に繋がる場合等、国内経済の動向に影響を受け、当社の業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (2) 知的財産権に関するリスク

当社の製品または技術については、他社の知的財産権を侵害しているとされる場合、また、第三者のソフトウェアその他の知的財産の使用に際し、何らかの事情により制約を受ける場合等のリスクがあり、当社の業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (3) 公的規制に関するリスク

当社は、生産活動における排気、排水、廃棄物等の処理の規制、建設業等の事業許認可、独占禁止、租税等に関する法令等の適用を受けております。これらの法令・規制等を遵守できなかった場合、事業許可の取り消しや入札停止などにより事業活動に制限を受け、当社の業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (4) 原材料の市況変動による影響

当社の製品の製造に使用している主な原材料は、アルミ、ステンレス、スチール等であり、それら原材料の価格が円安などにより高騰し、製品の価格にタイムリーに転嫁できない場合には、当社の業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (5) 特定顧客への依存

当社の製品販売は、全国の代理店を通じて行っておりますが、そのうち杉田エース株式会社に対する売上が20%程度あります。当該会社に急な事業方針の変更、業績等の変化が生じた場合には、当社の業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (6) 製品の欠陥

当社は、製品及びサービスの品質管理に鋭意邁進しておりますが、欠陥やリコールが全く発生しないという保証はなく、顧客に深刻な損失をもたらす危険性があります。この場合、製造物責任における賠償については、いわゆるPL保険に加入しておりますが、内容によっては保険の不担保となる可能性があります。また、賠償額を十分カバーできるという保証はありません。従いまして、大規模なリコールや製造物責任賠償につながるような製品またはサービスの欠陥は、多大なコストが発生し、また、顧客の購買意欲の低下につながり、結果として売上が低減し、当社の業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (7) 情報管理に関するリスク

当社の顧客や一般ユーザーの個人情報や機密情報の保護について、当社では、社内管理体制を整備し、外部委託業者の指導及び当社従業員に対する情報管理やセキュリティ教育など、情報の保護についての対策を推進しておりますが、情報の漏洩が全く起きないという保証はありません。万一、情報の漏洩が起きた場合、当社の信用は低下し、賠償責任が発生するなど、当社の業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6 【研究開発活動】

当社は顧客第一に徹し、住環境や都市環境の向上に貢献するため、住宅やビル等へ提供する顧客ニーズに合った製品開発に積極的に取り組んでまいりました。当社の研究開発は、既存製品の改良などは元より、新機能の組み合わせや加工技術の考案、アイデアやデザイン面にも重点を置いております。

当事業年度における研究開発費の総額は1億71百万円であります。

セグメントのうち、建築関連製品において研究開発活動を行っており、当事業年度のその概要と成果は次のとおりであります。

### （建築金物分野）

点検口関連の商品では、壁点検口において、コーナー部に樹脂部材を配し、見付幅を小さくすることで、意匠性を高めた「WE P型」とタイル貼りに適したオールステンレス製の「WE S型」を発売し、商品の選択肢に幅を持たせました。

床点検口では、防臭・防水タイプに断熱機能を追加した「F S M P D D型」を発売し、高付加価値化を図りました。また、新たな用途に対応した商品として、ウッドデッキ用点検口「K F D I K型」を開発しました。

内装用建材商品では、樹脂グレーチング「G P T L型」において、厚み15mm、20mmタイプを追加し、駅ホームの階段周りに取り付ける排水溝と溝蓋をセットにした駅改修用グレーチングを発売し、商品ラインナップの充実を図りました。また、H A C C P対応ビットでは、より現場要望に対応できるように、排水溝と床塩ビシートを溶着加工で一体化できる溶着ゴム仕様を開発、発売しました。

引戸金物関連の商品では、スライデックスシリーズとして、扉質量50kgに対応できるソフトクローザー「H C S - S C 5 0 T S」、また、ドアハンガー関連商品では、ニュートンシリーズとして、重量扉を軽く静かに開閉できる「ニュートン40」を開発し、それぞれのシリーズの充実を図りました。

マンション向け集合ポストでは、メール便等の大型郵便が収納可能で、盗難防止抑止機能を備えた「C S P - 1 3 1型」「C S P - 2 3 1型」について全16種類開発し、商品の充実を図りました。

当分野における研究開発費の金額は1億10百万円であります。

### （外装用建材分野）

アルミ軽量庇 R S パイザーにおいて、排水機能を向上させ、出幅を大型化した後ろ勾配庇「R S - K B 2型」を発売しました。

また、小型庇「R S - M S型」において、木造戸建て住宅に後付けでも取り付け可能な機種を6種類発売し、商品ラインナップを充実させました。

当分野における研究開発費の金額は23百万円であります。

### （エクステリア分野）

宅配ボックス関連商品では、アパートハイツ向け宅配ボックスにおいて、防滴仕様の機種と大雨時にも使用可能な物置に組み込んだ屋外設置用宅配ボックス（物置＋宅配ボックス）を発売し、戸建用宅配ボックスにおいては、大型宅配物（100サイズまで）が受け取り可能な「K B X - 2 1 B R型（ウケトール）」を発売し、様々な条件下に対応可能となるよう開発を行いました。

ごみ収集庫クリーンストッカーシリーズでは、「D M - Z - C K型」を発売しました。当該機種は、前年度開発した物置「D M - Z型」を活用しており、積雪強度を一般地域向けと豪雪地域向けの2区分として、豪雪地域向けのタイプでは物置と同様の積雪強度（垂直積雪量1.5m）に対応する構造としています。また、収納容量を増やした「C K R - 2型 D 9 0 0」仕様と狭小空間にも設置可能な「C K S型 D 6 0 0」仕様を追加発売し、「D M - Z - C K型」もサイズバリエーションを30サイズとすることで商品バリエーションを充実させました。

自転車ラック関連の商品では、設置スペースの奥行きが少ない物件でも対応できるスライド式自転車ラック「SR-G型」を発売しました。自転車収納ラックを現場にて4種類の角度で設置できるよう開発しています。また、簡易設置が可能となるよう、アンカー固定せず、製品重量で対応できるデザインと構造としたサイクルスタンド「CS-R型」を発売しました。

ホームタンクでは、一部部品を樹脂成形仕様とした油量計「TOGJ」及びその交換部品「TOGJC」を発売しました。耐食性の向上と低価格化を実現するとともに、部分交換可能な仕様とすることでメンテナンス性も高めました

当分野における研究開発費の金額は37百万円であります。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末において当社が判断したものであります。

### (1)重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成にあたりましては、重要な会計方針等に基づき、資産・負債の評価及び収益・費用の認識に影響を与える見積り及び判断を行っております。これらの見積り及び判断に関しましては、継続して評価を行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は見積りと異なる可能性があります。

当社の財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 2 財務諸表等 (1)財務諸表」の「重要な会計方針」に記載しております。

### (2)経営成績の分析

#### 売上高

当事業年度の売上高は、前事業年度と比べ2億70百万円増加し、106億74百万円となりました。これは、建築金物関連におけるドアハンガーやエクステリア関連におけるごみ収集庫などの販売が好調であったことが主因であります。

#### 売上原価

当事業年度の売上原価は、前事業年度と比べ2億30百万円増加し、72億94百万円となりました。これは、アルミ等の原材料価格の高騰や生産用機械装置など設備投資による減価償却費の増加が主因であります。

#### 販売費及び一般管理費

当事業年度の販売費及び一般管理費は、前事業年度と比べ1億31百万円増加し、29億88百万円となりました。これは、運搬費の高騰や外形標準課税の税率改定による租税公課の増加が主因であります。

#### 営業外収益、営業外費用

当事業年度の営業外収益は、前事業年度に比べて7百万円減少し、35百万円となりました。これは、受取保険金が減少したことが主因であります。

当事業年度の営業外費用は、前事業年度に比べ9百万円減少し、26百万円となりました。これは、前事業年度においてたな卸資産廃却損や休止固定資産減価償却費が発生したことが主因であります。

#### 特別利益、特別損失

当事業年度において特別利益は、前事業年度に比べ6百万円減少し、0百万円となりました。これは、投資有価証券売却益が減少したことが主因であります。

当事業年度において特別損失は、前事業年度に比べ5百万円減少し、2百万円となりました。これは、会員権評価損は生じているものの、前事業年度のような固定資産売却損が生じていないことが主因であります。

#### 法人税、住民税及び事業税、法人税等調整額

当事業年度の法人税、住民税及び事業税並びに法人税等調整額は、前事業年度と比べ43百万円減少し、1億31百万円となりました。これは、課税所得が減少したことが主因であります。

### (3)財政状態の分析

当事業年度のキャッシュ・フローの客観的な事項につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」及び「第5 経理の状況 2 財務諸表等 (1)財務諸表 キャッシュ・フロー計算書」に記載のとおりであります。

当事業年度末における資産、負債及び純資産の状態に関する分析は以下のとおりであります。

#### 流動資産

当事業年度末における流動資産の残高は、前事業年度末に比べ2億68百万円増加し、95億1百万円となりました。これは、製品等のたな卸資産が1億96百万円、現金及び預金が83百万円増加したことが主因であります。

#### 固定資産

当事業年度末における固定資産の残高は、前事業年度末に比べ94百万円減少し、56億95百万円となりました。これは、投資有価証券が株価の上昇に伴い72百万円増加したものの、減価償却などにより有形固定資産が1億61百万円減少したことが主因であります。

#### 流動負債

当事業年度末における流動負債の残高は、前事業年度末に比べ85百万円減少し、27億90百万円となりました。これは、買掛金などの仕入債務が30百万円、未払法人税等が48百万円減少したことが主因であります。

#### 固定負債

当事業年度末における固定負債の残高は、前事業年度末に比べ33百万円増加し、3億47百万円となりました。これは、投資有価証券の時価評価等により繰延税金負債が18百万円、役員退職慰労引当金が10百万円増加したことが主因であります。

#### 純資産

当事業年度末における純資産の残高は、前事業年度末に比べ2億26百万円増加し、120億58百万円となりました。これは、当期純利益を計上したことなどにより繰越利益剰余金が1億79百万円増加したことやその他有価証券評価差額金が47百万円増加したことが主因であります。

### (4)経営成績に重要な影響を与える要因について

当社の経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第2 事業の状況 4 事業等のリスク」に記載しております各事項によって、さまざまな影響を受けることが考えられます。

なお、大型台風や震災等の重大な天災等の場合、地域経済や国内経済に影響を与えるような甚大な被害によって、人的及び物的被害並びに生産活動等の事業継続への影響が存在すると考えられます。

また、被災状況によっては、国内経済への影響度により当社の売上高に影響を与えることが考えられます。

### (5)戦略的現状と見通し

「第2 事業の状況 3 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (4) 会社の対処すべき課題」をご参照ください。

### (6)資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社の資金状況は、営業活動によるキャッシュ・フローでは、5億87百万円の収入となりました。なお、当事業年度におけるキャッシュ・フローの状況は、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2)キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

### (7)経営者の問題認識と今後の方針について

経営者の問題認識と今後の方針のうち、当社の競争戦略については、「第2 事業の状況 3 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (4) 会社の対処すべき課題」、株主還元方針については、「第4 提出会社の状況 3 配当政策」にそれぞれ記載のとおりであります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当事業年度の設備投資等の総額は、1億51百万円であります。その主なものは、建築関連製品の生産用機械や金型などであります。

#### 2 【主要な設備の状況】

平成30年2月28日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業 員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
室蘭工場 (北海道室蘭市)	建築関連製品 (エクステリア)	生産設備	29,124	40,167	71,605 (6,806)	5,508	146,405	9
成田工場 (千葉県富里市)	建築関連製品 (エクステリア)	生産設備	573,670	70,809	554,188 (19,265)	22,038	1,220,707	33
千葉工場 (千葉県佐倉市)	建築関連製品 (外装用建材・ エクステリア)	生産設備	66,247	29,276	42,588 (9,154)	1,924	140,037	8
十三工場 (大阪市淀川区)	建築関連製品 (建築金物)	生産設備	52,477	1,273	184,231 (2,690)	10,965	248,947	22
兵庫工場 (兵庫県加西市)	建築関連製品 (建築金物・ エクステリア)	生産設備	72,997	182,676	44,977 (24,034)	23,051	323,703	40
津山工場 (岡山県津山市)	建築関連製品 (外装用建材)	生産設備	245,396	148,259	384,503 (31,867)	7,570	785,729	46
岡山工場 (岡山市東区)	建築関連製品 (建築金物・ エクステリア)	生産設備	27,142	109,527	23,669 (11,984)	6,416	166,756	8
東京支店・ 名古屋支店 他10営業所	建築関連製品	販売設備	159,494	0	398,948 (8,035)	2,765	561,208	89
本社 (大阪市淀川区)		本社機能	132,407	472	74,659 (3,470)	46,448	253,987	51
アメニティ 新高・貸店舗 (大阪市淀川区)	不動産賃貸	賃貸施設	432,227	562	207,056 (5,857)	20,599	660,445	
厚生施設 その他		厚生施設等	44,355		50,921 (674)	193	95,469	

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
2 「帳簿価額」欄の「その他」は、主に工具、器具及び備品であります。  
3 リース契約による主な賃借設備は、以下のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	リース期間 (年)	リース料 (千円)	リース 契約残高 (千円)
東京支店・ 名古屋支店 他10営業所	建築関連製品	営業車両等 (オペレーティング・リース)	5	24,330	69,436

- 4 「厚生施設その他」に記載した土地、建物及び構築物の主な内訳は、次のとおりであります。

区分	土地		建物及び構築物	
	面積(㎡)	金額(千円)	面積(㎡)	金額(千円)
福利厚生施設等 4ヶ所 (神戸市北区有馬町他)	164	758	16	16,377
従業員社宅 8ヶ所 (大阪市淀川区他)	510	50,163	537	26,989

#### 3 【設備の新設、除却等の計画】

特記すべき事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	21,000,000
計	21,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年5月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,970,480	5,970,480	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	5,970,480	5,970,480		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成9年2月7日	600,000	5,970,480	213,000	481,524	234,255	249,802

(注) 有償一般募集増資

入札による募集

発行株数	500,000株
発行価格	710円
資本組入額	355円
払込金額総額	355,000千円

入札によらない募集

発行株数	100,000株
発行価格	720円
資本組入額	355円
払込金額総額	72,000千円

(6) 【所有者別状況】

平成30年2月28日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		9	16	43	23	4	1,199	1,294	
所有株式数(単元)		9,724	508	4,473	1,506	8	43,466	59,685	1,980
所有株式数の割合(%)		16.3	0.9	7.5	2.5	0.0	72.8	100.0	

(注) 自己株式97,932株は、「個人その他」に979単元及び「単元未満株式の状況」に32株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成30年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
藤岡洋一	兵庫県尼崎市	1,115	18.7
ダイケン取引先持株会	大阪市淀川区新高二丁目7番13号	453	7.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	299	5.0
藤岡秀一	兵庫県尼崎市	295	5.0
ダイケン従業員持株会	大阪市淀川区新高二丁目7番13号	243	4.1
株式会社りそな銀行	大阪市中央区備後町二丁目2番1号	243	4.1
藤岡純一	兵庫県西宮市	237	4.0
押木信吉	大阪府高槻市	202	3.4
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	185	3.1
桑井孝子	兵庫県尼崎市	162	2.7
計		3,437	57.6

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 97,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,870,600	58,706	
単元未満株式	普通株式 1,980		
発行済株式総数	5,970,480		
総株主の議決権		58,706	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式32株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ダイケン	大阪市淀川区新高 二丁目7番13号	97,900		97,900	1.6
計		97,900		97,900	1.6

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	209	176,343
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他( )				
保有自己株式数	97,932		97,932	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営における重要政策の一つであると考えており、長期に株式を保有していただく株主の期待にお応えするため、業績に連動した配当を行うこととし、当期純利益（通期）の25%以上の配当性向を目標とすることを基本方針としております。

当事業年度（平成30年2月期）配当につきましては、基本方針に従い、収益の状況、将来の設備投資等の資源確保などを勘案し、1株当たり15円とおります。

また、内部留保金につきましては、企業基盤の強化及び長期的な設備投資及び更新など、将来の事業展開に備えることとし、事業の拡大に努めてまいりたいと考えております。

当社は、取締役会の決議により毎年8月31日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めておりますが、現在は期末配当のみ年1回実施しております。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

（注） 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成30年5月24日 定時株主総会決議	88,088	15.00

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
決算年月	平成26年2月	平成27年2月	平成28年2月	平成29年2月	平成30年2月
最高(円)	666	663	768	769	1,349
最低(円)	545	530	580	579	735

（注） 最高・最低株価は、平成25年7月15日以前は大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであり、平成25年7月16日以降は東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年 9月	10月	11月	12月	平成30年 1月	2月
最高(円)	850	856	858	930	911	923
最低(円)	801	823	829	805	860	783

（注） 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性8名 女性1名 (役員のうち女性の比率11.1%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 代表取締役		藤岡 洋一	昭和39年7月6日生	昭和63年4月 住友林業株式会社入社 平成4年1月 当社入社 平成6年5月 当社取締役営業本部部長 平成8年5月 当社常務取締役営業本部副本部長 平成10年4月 当社常務取締役営業本部部長 平成10年5月 当社取締役副社長営業本部部長 平成19年5月 当社代表取締役社長(現任)	1	1,115
常務取締役	営業本部長	松井 浩治	昭和27年8月17日生	昭和50年4月 当社入社 平成4年3月 当社名古屋営業所長 平成7年3月 当社神奈川営業所長 平成10年3月 当社営業本部課長 平成13年3月 当社営業本部次長 平成17年5月 当社執行役員営業本部部長 平成19年5月 当社取締役営業本部部長 平成23年5月 当社常務取締役営業本部部長(現任)	2	6
常務取締役	製造管理 部長	北川 淳二	昭和29年3月9日生	昭和54年4月 ダイケンシャッター株式会社(被 合併会社)入社 平成6年4月 当社十三工場生産管理課長 平成18年3月 当社十三工場開発課長兼工場長代 理 平成20年3月 当社執行役員十三工場長 平成24年3月 当社執行役員製造管理部部長 平成24年5月 当社取締役製造管理部部長 平成30年5月 当社常務取締役製造管理部部長 (現任)	1	14
取締役	経理部長	田淵 敦司	昭和33年2月14日生	昭和56年3月 当社入社 平成5年3月 当社社長室課長代理 平成17年3月 当社経理部次長 平成17年5月 当社執行役員経理部長 平成19年5月 当社取締役経理部長(現任)	2	6
取締役	総務部長	北脇 昭	昭和34年5月26日生	昭和57年3月 日本伝導精機株式会社(現株式会 社日伝)入社 昭和62年2月 当社入社 平成9年3月 当社総務部課長 平成18年5月 当社執行役員総務部長 平成24年5月 当社取締役総務部長(現任)	1	6
取締役		有田 真紀	昭和43年7月10日生	平成15年7月 有田真紀公認会計士事務所開設 所長(現任) 平成26年11月 日本PCサービス株式会社社外取 締役(現任) 平成27年5月 当社取締役に就任(現任) 平成29年6月 株式会社栗本鐵工所社外監査役 (現任)	2	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		小畑 芳三	昭和31年3月10日生	昭和54年4月 株式会社大和銀行(現株式会社りそな銀行)入社 平成14年3月 大和銀信託銀行株式会社(現株式会社りそな銀行)出向 平成18年4月 当社内部監査室 出向 平成19年3月 当社入社 内部監査室長 平成19年5月 当社常勤監査役に就任(現任)	3	1
監査役		橋田 光正	昭和35年8月30日生	平成10年7月 橋田公認会計士事務所(現りょうざん会計事務所)開設 現在に至る 平成18年5月 東陽監査法人代表社員就任(現任) 平成22年5月 当社監査役に就任(現任)	4	
監査役		森住 曜二	昭和50年5月18日生	平成11年10月 太田昭和監査法人(現新日本有限責任監査法人)入所 平成28年1月 森住曜二公認会計士事務所所長(現任) 株式会社グラッドキューブ社外取締役就任(現任) 平成30年5月 当社監査役に就任(現任)	4	
計						1,150

- (注) 1 取締役有田真紀氏は社外取締役であります。  
2 監査役橋田光正氏及び森住曜二氏は社外監査役であります。  
3 取締役及び監査役の任期については、それぞれ次のとおりであります。
- 1 平成30年5月24日開催の第70回定時株主総会終結の時から平成32年5月開催予定の第72回定時株主総会終結の時まで。
  - 2 平成29年5月25日開催の第69回定時株主総会終結の時から平成31年5月開催予定の第71回定時株主総会終結の時まで。
  - 3 平成27年5月21日開催の第67回定時株主総会終結の時から平成31年5月開催予定の第71回定時株主総会終結の時まで。
  - 4 平成30年5月24日開催の第70回定時株主総会終結の時から平成34年5月開催予定の第74回定時株主総会終結の時まで。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

#### イ 企業統治の体制の概要及び企業統治の体制を採用する理由

当社は監査役会設置会社であり、取締役6名（うち社外取締役1名）、監査役3名（うち社外監査役2名）を選任しております。取締役会は、原則毎月1回の定期取締役会と必要に応じて臨時に取締役会を開催し、重要事項の審議及び経営の意思決定を行う他、業務の執行状況の監督を行っております。

当社は、事業経験者としての知識と経験を有する取締役で構成する取締役会と、客観的・中立的な立場の社外監査役2名を含む監査役会とで経営の公正性及び透明性を高め、効率的な経営システムの確立と、経営の監視機能の確立に努めてまいりました。また、監査役会、内部監査室、会計監査人の相互の連携が図られており、経営監視機能の客観性及び中立性を確保する体制が機能していると判断していることから、現在のコーポレート・ガバナンス体制を採用しております。

#### ロ 内部統制システムの整備及びリスク管理体制の整備の状況

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、その他会社の業務の適正を確保するための体制について、取締役会で決議した内容の概要は次のとおりであります。

#### (a) 取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ・当社は、コンプライアンス体制の根幹となる行動指針を定め、取締役が、率先して研修等へ参加することを通じて、コンプライアンスの意識向上に努めると共に、すべての役職員が事業活動のあらゆる局面において、コンプライアンス規程に従い実践するよう周知徹底します。
- ・内部監査室は、総務部と連携のうえコンプライアンスの状況を監視すると共に、随時取締役会に報告します。
- ・当社は、コンプライアンスに係る問題等を発見した場合の報告ルールを定めると共に、通常の報告ルート他に公益通報制度を設け、その利用につき役職員に周知し運営します。

#### (b) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会をはじめとする重要な会議の意思決定に係る記録や各取締役が職務権限規程に基づいて決裁した文書等、取締役の職務執行に係る情報を文書に記録し、法令及び社内規程に基づき、定められた期間保存します。また、取締役及び監査役はそれらの文書を随時閲覧できるものとします。

#### (c) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

全社的なリスク状況への対応については、別途定められた「危機管理規定」に基づき各部門への浸透を図ります。各部門の所管業務に付随するリスク管理は当該部門が行い、各事業部門の長は、定期的にはリスク管理の状況を担当取締役及び取締役会に報告し、取締役会において、改善策を審議・決定します。

#### (d) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は目標の明確な付与等を通じて市場競争力の強化を図るために、年度予算を策定し、それに基づく業績管理を行うと共に、別途定める社内規程に基づく、職務権限及び意思決定ルールにより、適正かつ効率的に職務の執行が行われる体制をとるものとします。

また、取締役会の意思決定の妥当性を高めるため、社外取締役を選任するものとします。

(e) 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、当社及び子会社等と重大な法令違反その他コンプライアンスに関する重要事実について相互に情報確認を行い、適切なリスク管理に努めます。

また、当社と子会社等との間における取引は、法令・会計原則・税法その他の社会規範に照らし適切に管理すると共に、不適切な取引または会計処理を防止するため、内部監査室は監査役及び監査人と十分な情報交換を行うものとします。

当社の監査役は「監査役監査規程・第16条ノ2」に従い、子会社の業務及び財産の状況を調査することができるものとし、子会社の取締役または従業員から直接報告を受けることができるものとします。

(f) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役は、従業員に監査業務に必要な事項を命令することができるものとし、監査役より監査業務に必要な命令を受けた従業員はその命令に関して、取締役、内部監査室長等の指揮命令を受けないものとします。

また、必要に応じて、監査役の業務補助のため監査役スタッフを置くこととし、その人事については、あらかじめ監査役の同意を必要とします。

(g) 取締役・使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制

監査役は、取締役会の他、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、部門長会議等の重要な会議に出席すると共に、主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて取締役及び従業員にその説明を求めるものとします。

取締役または従業員は、監査役に対して、法定の事項に加え、当社及び子会社等の財務及び事業に重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況、内部者通報による通報状況及びその内容をすみやかに報告する体制を整備し、報告の方法（報告者、報告受領者、報告時期等）については、取締役と監査役の協議により決定します。

また、監査役に対し当該通報及び報告したことを理由として不利な取り扱いを受けないものとします。

(h) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ・ 監査役と代表取締役との間の定期的な意見交換会を設定します。
- ・ 監査役は、法律上の判断を必要とする場合は、随時顧問弁護士に専門的な立場からの助言を受け、会計監査業務については、監査人に意見を求めるなど必要な連携を図ります。
- ・ 監査役の職務執行に関して生じる費用については、会社の経費予算の範囲内において、所定の手続きにより会社が負担します。

(i) 財務報告の信頼性を確保するための体制

当社は、財務報告の信頼性を確保するため、金融商品取引法に基づく内部統制報告書の有効かつ適切な提出に向け、内部統制システムの構築を行います。また、その仕組みが適正に機能することを継続的に評価し、必要な是正を行うものとします。

(j) 反社会的勢力排除に向けた基本方針

当社は、反社会的勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持たないことを「行動指針」に定め、基本方針とします。また、必要に応じて警察、顧問弁護士などの外部の専門機関とも連携をとり、体制の強化を図ります。

## 八 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

平成27年5月施行の改正会社法及び改正会社法施行規則に対応し、当社の「内部統制システムに関する基本方針」の一部を改訂しております。

社内規程の制定並びに改定を行い、取締役が法令並びに定款に則って行動するよう企業行動基準の周知活動を行うと共に、取締役会において内部統制監査に基づく報告を定期的に行っております。

社外監査役を含む監査役は、監査計画に基づいた監査の他、取締役会への出席や、代表取締役、会計監査人並びに内部監査室との間で定期的に情報交換等を行い、取締役の職務執行の監査、内部統制の運用状況を確認しております。

## 内部監査及び監査役監査

当社の内部監査は、代表取締役の直轄機関として内部監査室を設置し、責任者1名と担当者と構成されており、計画的に工場・営業店所等を監査し、業務遂行の公正性及び透明性の確保に寄与しております。また、財務報告に係る内部統制監査を担当部門と協議、連携の上実行する他、監査役会及び会計監査人と必要の都度、相互の情報交換・意見交換を行うなどの連携を密にして、監査の実効性と効率性の向上を目指しております。

監査役会は、常勤監査役1名、非常勤監査役2名から構成され、監査役会が定めた監査役監査基準に則り、取締役業務執行の適法性、妥当性に関して公正・客観的な立場から監査を行っております。なお、社外監査役は、公認会計士として財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。また、取締役会には原則として監査役全員が出席しており、取締役の業務執行状況を十分に監査できる体制となっております。

## 社外取締役及び社外監査役並びに会計監査人

### イ 社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針

当社は、社外取締役または社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めておりませんが、その選任に際しては経歴や当社との関係を踏まえ、当社取締役から独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを個別に判断しております。

### ロ 社外取締役及び社外監査役の員数、機能・役割、選任状況についての考え方

当社では、社外取締役を1名選任しており、独立した立場で当社の経営に対する適切な意見・助言を行い、業務執行に係る意思決定の妥当性・適法性確保を強化しております。また、社外監査役は2名選任しており監査役監査の独立性・客観性を確保し、幅広い経験と高い見識に基づき、取締役会及び取締役の職務執行を監査しております。

当社は、より一層の機動的な経営を実現するため5名の執行役員を配置した上で、事業規模を勘案し取締役員数の最適化を図り、取締役6名により意思決定の迅速化を図っております。

なお、当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第427条第1項の規定により、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨、および当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令が規定する額とする旨を定款で定めております。

### ハ 社外取締役及び社外監査役の選任方針

社外取締役の有田真紀氏は、公認会計士並びに税理士として財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、客観的な立場で当社の経営の意思決定に意見できる人物であります。また、関係会社、主要な取引先の出身者ではなく、一般株主との利益相反性のおそれがないため、その独立性には何ら問題が無いものと判断しております。

社外監査役の橋田光正氏及び森住曜二氏は、公認会計士として財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、また、取引所が規定する独立役員となっております。コーポレート・ガバナンスにおきましても、社外監査役の独立した立場から客観的・中立的な視点からの経営監視機能が実施されており、経営の意思決定に対する監視は機能していると認識しております。

### ニ 社外取締役及び社外監査役並びに会計監査人との人的・資金的・取引関係その他利害関係

当社と社外取締役及び社外監査役並びに会計監査人との間には、特筆すべき利害関係はありません。

なお、当社は、会社法第427条第1項の規定により、定款で損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨定めており、現在、社外役員及び会計監査人との間でこの責任限定契約を締結しております。

### ホ 会計監査人の状況

会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査についての契約は、新日本有限責任監査法人と締結しております。同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社との間には特別な利害関係はありません。当事業年度において業務を執行した公認会計士の氏名は次のとおりであります。なお、継続監査年数については、全員7年以内であるため記載を省略しております。

指定有限責任社員 業務執行社員 梅原 隆

指定有限責任社員 業務執行社員 仲下 寛司

また、会計監査業務に係る補助者は、公認会計士7名、その他3名であります。

監査役による監督・監査と内部監査・監査役監査・会計監査との相互連携や内部統制部門との関係

監査役は、監査役会において定めた監査計画等に従い、取締役会や予算会議、内部監査報告会をはじめとする重要な会議への出席や、業務及び財産の状況調査を通して、取締役の職務遂行を監査しております。また、監査役は、会計監査人と定期的に会合を持つなど、緊密な連携を保ち、意見及び情報交換を行うと共に、内部監査部門等からの報告を通じて適切な監査を実施しております。

社外監査役は、社内監査役と意思疎通を十分に図って連携し、内部監査部門からの各種報告を受け、監査役会での十分な議論を踏まえて監査を行っております。

また、監査役からその職務を補助すべき使用人を置くことを要請された場合には、遅滞なく対応する体制を整備しております。

#### 役員の報酬等

##### イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	104	79		16	8	5
監査役 (社外監査役を除く。)	14	10		2	1	1
社外役員	5	5				3

##### ロ 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載しておりません。

##### ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

総額(百万円)	対象となる役員の 員数(名)	内容
33	3	部長としての職務に対する報酬

##### ニ 役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

役員報酬等の決定方針は、株主総会に基づき、取締役会において相当な報酬等を決定することとしており、インセンティブ付与に関する施策は実施しておりません。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 14銘柄  
貸借対照表計上額の合計額 7億84百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
ユアサ商事株式会社	71,200	230,333	取引関係の維持・強化
トラスコ中山株式会社	49,600	125,736	取引関係の維持・強化
杉田エース株式会社	93,800	111,059	取引関係の維持・強化
株式会社キムラ	172,250	77,168	取引関係の維持・強化
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	56,590	41,786	取引関係の維持・強化
株式会社みずほフィナンシャルグループ	186,520	39,113	取引関係の維持・強化
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	5,000	21,885	取引関係の維持・強化
阪和興業株式会社	20,270	16,338	取引関係の維持・強化
大東建託株式会社	1,000	15,720	取引関係の維持・強化
株式会社りそなホールディングス	22,300	13,982	取引関係の維持・強化
ネボン株式会社	50,000	9,000	取引関係の維持・強化

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
ユアサ商事株式会社	71,752	268,354	取引関係の維持・強化
トラスコ中山株式会社	49,600	138,979	取引関係の維持・強化
杉田エース株式会社	93,800	111,903	取引関係の維持・強化
株式会社キムラ	175,986	86,233	取引関係の維持・強化
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	56,590	43,138	取引関係の維持・強化
株式会社みずほフィナンシャルグループ	186,520	37,192	取引関係の維持・強化
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	5,000	23,430	取引関係の維持・強化
阪和興業株式会社	4,277	20,831	取引関係の維持・強化
大東建託株式会社	1,000	17,750	取引関係の維持・強化
ネボン株式会社	50,000	14,000	取引関係の維持・強化
株式会社りそなホールディングス	22,300	13,647	取引関係の維持・強化

八 保有目的が純投資目的である投資株式

	前事業年度 (千円)	当事業年度 (千円)			
	貸借対照表 計上額の合計額	貸借対照表 計上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式					
非上場株式以外の株式	960	476	29	255	30

取締役会で決議できる株主総会決議事項

イ 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定に基づき、株主への機動的な利益還元を実施を可能とするため、取締役会の決議によって毎年8月31日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

ロ 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、機動的な資本政策を遂行できるようにするため、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

取締役の定数

当社の取締役は、15名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社の取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
20		20	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前事業年度

該当事項はありません。

当事業年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、前事業年度の監査実績及び当事業年度の監査計画等を勘案し、監査公認会計士等と協議のうえ決定することとしております。

## 第5 【経理の状況】

### 1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(平成29年3月1日から平成30年2月28日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表について

「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高等から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいものとして、連結財務諸表は作成しておりません。

### 4 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての確に対応ができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人等の行う研修への参加や会計専門誌の定期購読等を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,773,594	3,857,116
受取手形	986,160	796,021
電子記録債権	1,308,769	1,642,085
売掛金	1,728,537	1,580,936
商品	9,018	6,609
製品	622,097	737,203
原材料	379,435	441,592
仕掛品	266,906	295,106
貯蔵品	34,689	28,403
繰延税金資産	92,492	87,704
その他	31,723	29,199
貸倒引当金	669	591
流動資産合計	9,232,755	9,501,388
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,712,982	5,696,582
減価償却累計額	3,806,561	3,877,193
建物(純額)	1,906,421	1,819,389
構築物	225,439	225,439
減価償却累計額	202,443	209,287
構築物(純額)	22,996	16,151
機械及び装置	2,471,748	2,565,126
減価償却累計額	1,893,654	1,984,922
機械及び装置(純額)	578,094	580,203
車両運搬具	60,996	60,096
減価償却累計額	55,672	57,274
車両運搬具(純額)	5,324	2,822
工具、器具及び備品	1,451,079	1,526,136
減価償却累計額	1,295,702	1,378,654
工具、器具及び備品(純額)	155,377	147,481
土地	2,037,501	2,037,350
建設仮勘定	58,940	
有形固定資産合計	4,764,655	4,603,398

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	93,449	75,477
電話加入権	1,696	1,696
その他	2,803	2,300
<b>無形固定資産合計</b>	<b>97,949</b>	<b>79,473</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	711,670	784,523
関係会社株式	20,000	20,000
保険積立金	130,535	153,303
その他	72,411	61,532
貸倒引当金	6,650	6,650
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>927,966</b>	<b>1,012,710</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>5,790,571</b>	<b>5,695,582</b>
<b>資産合計</b>	<b>15,023,326</b>	<b>15,196,970</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	366,266	250,767
電子記録債務	1,261,920	1,356,492
買掛金	520,880	511,567
未払金	161,652	149,648
未払費用	130,896	132,644
未払法人税等	167,410	118,450
賞与引当金	165,862	159,168
役員賞与引当金	20,000	18,500
その他	81,722	93,743
流動負債合計	2,876,610	2,790,982
固定負債		
役員退職慰労引当金	110,775	120,775
繰延税金負債	101,755	120,319
その他	101,240	105,949
固定負債合計	313,771	347,043
負債合計	3,190,382	3,138,025
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	481,524	481,524
資本剰余金		
資本準備金	249,802	249,802
その他資本剰余金	596	596
資本剰余金合計	250,398	250,398
利益剰余金		
利益準備金	120,381	120,381
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	784	571
別途積立金	7,500,000	7,500,000
繰越利益剰余金	3,255,598	3,434,615
利益剰余金合計	10,876,763	11,055,567
自己株式	55,874	56,050
株主資本合計	11,552,811	11,731,439
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	280,132	327,505
評価・換算差額等合計	280,132	327,505
純資産合計	11,832,944	12,058,944
負債純資産合計	15,023,326	15,196,970

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 3月 1日 至 平成29年 2月28日)	当事業年度 (自 平成29年 3月 1日 至 平成30年 2月28日)
<b>売上高</b>		
商品及び製品売上高	10,247,439	10,508,755
不動産賃貸収入	156,254	165,294
売上高合計	10,403,694	10,674,050
<b>売上原価</b>		
商品及び製品期首たな卸高	710,621	631,116
当期製品製造原価	5,869,203	6,322,457
当期商品仕入高	469,952	463,235
当期製品仕入高	220,712	199,682
当期外注施工費	346,512	354,369
合計	7,617,001	7,970,861
他勘定振替高	1 7,721	1 9,608
商品及び製品期末たな卸高	631,116	743,813
商品及び製品売上原価	2 6,978,164	2 7,217,440
不動産賃貸原価	86,361	77,120
売上原価合計	7,064,525	7,294,560
<b>売上総利益</b>	3,339,168	3,379,489
販売費及び一般管理費	3, 4 2,856,703	3, 4 2,988,154
<b>営業利益</b>	482,464	391,335
<b>営業外収益</b>		
受取利息	157	96
受取配当金	19,363	19,704
仕入割引	4,201	3,862
受取地代家賃	5,522	5,467
受取保険金	7,975	228
雑収入	5,524	6,313
営業外収益合計	42,744	35,673
<b>営業外費用</b>		
支払利息	54	43
売上割引	22,150	23,669
為替差損	315	1,633
休止固定資産減価償却費	3,085	
たな卸資産廃棄損	7,703	
雑損失	2,909	1,231
営業外費用合計	36,218	26,578
<b>経常利益</b>	488,991	400,430
<b>特別利益</b>		
投資有価証券売却益	6,600	255
特別利益合計	6,600	255
<b>特別損失</b>		
会員権評価損	3,000	2,367
固定資産売却損	5 5,244	
特別損失合計	8,244	2,367
税引前当期純利益	487,346	398,318
法人税、住民税及び事業税	172,733	128,958
法人税等調整額	1,710	2,464
法人税等合計	174,444	131,422
<b>当期純利益</b>	312,902	266,895

A 【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年 3月 1日 至 平成29年 2月28日)		当事業年度 (自 平成29年 3月 1日 至 平成30年 2月28日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	3,944,543	67.0	4,281,523	67.3
労務費		890,902	15.1	961,922	15.1
経費		1,051,542	17.9	1,116,314	17.6
当期総製造費用		5,886,988	100.0	6,359,760	100.0
仕掛品期首たな卸高		255,629		266,906	
合計		6,142,618		6,626,666	
仕掛品期末たな卸高		266,906		295,106	
他勘定振替高	2	6,508		9,101	
当期製品製造原価		5,869,203		6,322,457	

(注) 1 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
外注加工費	578,845	588,864
減価償却費	204,747	246,847
賃借料	5,656	5,121
消耗工具費	79,535	74,225

2 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
再加工のための受入高	2,909	2,463
固定資産等への振替高	9,417	11,564
計	6,508	9,101

(原価計算の方法)

当社の原価計算は、個別受注製品の一部については個別原価計算による実際原価計算を、その他の製品については組別総合原価計算による実際原価計算を、それぞれ採用しております。

B 【不動産事業原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年 3月 1日 至 平成29年 2月28日)		当事業年度 (自 平成29年 3月 1日 至 平成30年 2月28日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
減価償却費		20,908	24.2	22,363	29.0
支払手数料		7,113	8.2	7,440	9.6
修繕費		14,464	16.7	11,478	14.9
租税公課		17,584	20.4	16,024	20.8
水道光熱費		9,062	10.5	9,904	12.8
その他		17,228	20.0	9,909	12.9
当期不動産事業原価		86,361	100.0	77,120	100.0

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	481,524	249,802	596	250,398
当期変動額				
自己株式の取得				
剰余金の配当				
当期純利益				
固定資産圧縮積立金の取崩				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計				
当期末残高	481,524	249,802	596	250,398

	株主資本				
	利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		その他利益剰余金			
		固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	120,381	997	7,500,000	3,024,701	10,646,080
当期変動額					
自己株式の取得					
剰余金の配当				82,218	82,218
当期純利益				312,902	312,902
固定資産圧縮積立金の取崩		213		213	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計		213		230,896	230,683
当期末残高	120,381	784	7,500,000	3,255,598	10,876,763

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	55,874	11,322,128	160,687	160,687	11,482,816
当期変動額					
自己株式の取得					
剰余金の配当		82,218			82,218
当期純利益		312,902			312,902
固定資産圧縮積立金の取崩					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			119,444	119,444	119,444
当期変動額合計		230,683	119,444	119,444	350,128
当期末残高	55,874	11,552,811	280,132	280,132	11,832,944

当事業年度(自 平成29年 3月 1日 至 平成30年 2月28日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	481,524	249,802	596	250,398
当期変動額				
自己株式の取得				
剰余金の配当				
当期純利益				
固定資産圧縮積立金の取崩				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計				
当期末残高	481,524	249,802	596	250,398

	株主資本				
	利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		その他利益剰余金			
		固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	120,381	784	7,500,000	3,255,598	10,876,763
当期変動額					
自己株式の取得					
剰余金の配当				88,091	88,091
当期純利益				266,895	266,895
固定資産圧縮積立金の取崩		213		213	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計		213		179,017	178,804
当期末残高	120,381	571	7,500,000	3,434,615	11,055,567

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	55,874	11,552,811	280,132	280,132	11,832,944
当期変動額					
自己株式の取得	176	176			176
剰余金の配当		88,091			88,091
当期純利益		266,895			266,895
固定資産圧縮積立金の取崩					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			47,372	47,372	47,372
当期変動額合計	176	178,627	47,372	47,372	226,000
当期末残高	56,050	11,731,439	327,505	327,505	12,058,944

## 【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 3月 1日 至 平成29年 2月28日)	当事業年度 (自 平成29年 3月 1日 至 平成30年 2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	487,346	398,318
減価償却費	315,644	361,650
固定資産売却損益 (は益)	5,244	9
会員権評価損	3,000	2,367
投資有価証券売却損益 (は益)	6,600	255
たな卸資産廃棄損	7,703	
貸倒引当金の増減額 (は減少)	591	77
賞与引当金の増減額 (は減少)	1,984	6,694
役員賞与引当金の増減額 (は減少)	1,000	1,500
役員退職慰労引当金の増減額 (は減少)	10,000	10,000
受取利息及び受取配当金	19,520	19,801
支払利息	54	43
為替差損益 (は益)	605	180
売上債権の増減額 (は増加)	119,181	4,423
たな卸資産の増減額 (は増加)	51,174	196,769
仕入債務の増減額 (は減少)	168,502	166,245
その他の資産の増減額 (は増加)	1,072	5,346
その他の負債の増減額 (は減少)	1,074	35,232
未払消費税等の増減額 (は減少)	14,591	2,166
小計	789,926	750,194
利息及び配当金の受取額	19,520	19,801
利息の支払額	54	43
法人税等の支払額	213,554	182,094
営業活動によるキャッシュ・フロー	595,837	587,858
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	318,271	374,840
有形固定資産の売却による収入	14,503	98
無形固定資産の取得による支出	10,109	17,540
定期預金の預入による支出	1,465,000	1,465,000
定期預金の払戻による収入	1,465,000	1,465,000
投資有価証券の取得による支出	4,882	4,912
投資有価証券の売却による収入	8,100	575
その他の支出	25,062	23,391
その他の収入	398	4,860
投資活動によるキャッシュ・フロー	335,323	415,150
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出		176
配当金の支払額	81,570	88,844
財務活動によるキャッシュ・フロー	81,570	89,021
現金及び現金同等物に係る換算差額	608	164
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	179,552	83,522
現金及び現金同等物の期首残高	2,859,041	3,038,594
現金及び現金同等物の期末残高	1 3,038,594	1 3,122,116

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 15～50年

機械及び装置 10年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

なお自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に支給する賞与の支払に備えるため、当期末における支給見込額を計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

6. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資であります。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(消費税等の会計処理)

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日)
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成30年2月16日)

(1) 概要

本会計基準等は、日本公認会計士協会から公表されている税効果会計に関する実務指針のうち、繰延税金資産の回収可能性に関する定め以外の税効果会計に関する定めについて、基本的にその内容を踏襲した上で、一部の会計処理について以下のような必要な見直しが行われております。

会計処理

- イ 個別財務諸表における子会社株式又は関連会社株式に係る将来加算一時差異の取扱い
- ロ 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」第18項の(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱い

(2) 適用予定日

平成32年2月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当該財務諸表作成時において評価中であります。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行6行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
当座貸越極度額の総額	3,050,000千円	3,050,000千円
借入実行残高		
差引額	3,050,000千円	3,050,000千円

(損益計算書関係)

1 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
再加工のための振替高	2,909千円	2,463千円
販売費及び一般管理費	3,530千円	5,726千円
営業外費用等	1,282千円	1,418千円
計	7,721千円	9,608千円

2 通常の販売目的で保有する棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
売上原価	146千円	2,119千円

3 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
運搬費	584,690千円	673,804千円
給料手当	997,928千円	1,007,973千円
賞与引当金繰入額	96,215千円	84,849千円
役員退職慰労引当金繰入額	10,000千円	10,000千円
減価償却費	83,501千円	89,570千円
役員賞与引当金繰入額	20,000千円	18,500千円
貸倒引当金繰入額	256千円	77千円
おおよその割合		
販売費	50%	51%
一般管理費	50%	49%

4 研究開発費の総額

一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。なお、当期製造費用に含まれる研究開発費はありません。

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
研究開発費の総額	174,235千円	171,531千円

5 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
土地	2,230千円	
建物	2,981千円	
その他	33千円	
計	5,244千円	

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	5,970,480			5,970,480

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	97,723			97,723

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年5月25日 定時株主総会	普通株式	82,218	14.00	平成28年2月29日	平成28年5月26日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年5月25日 定時株主総会	普通株式	繰越 利益剰余金	88,091	15.00	平成29年2月28日	平成29年5月26日

当事業年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	5,970,480			5,970,480

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	97,723	209		97,932

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加209株であります。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年5月25日 定時株主総会	普通株式	88,091	15.00	平成29年2月28日	平成29年5月26日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年5月24日 定時株主総会	普通株式	繰越 利益剰余金	88,088	15.00	平成30年2月28日	平成30年5月25日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
現金及び預金	3,773,594千円	3,857,116千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	735,000千円	735,000千円
現金及び現金同等物	3,038,594千円	3,122,116千円

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち、解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
1年内	2,138	1,590
1年超	1,590	
合計	3,728	1,590

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取り組み方針

当社は、資金運用については余資を短期の定期性預金等安全性の高い金融資産で運用しております。また、資金調達については自己資金又は銀行借入で賄う方針であります。なお、デリバティブ取引については、現在利用しておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形、電子記録債権及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、その一部の外貨建ての営業債権は、為替のリスクに晒されております。投資有価証券は、主として取引先企業との業務に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形、電子記録債務及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。また、その一部には、原材料等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替のリスクに晒されております。借入金は、主に運転資金に必要な資金の調達を目的としたものであります。これらは、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されておりますが、短期の支払期日のみであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

取引先と信限度規程に従い、営業債権について、営業本部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理すると共に、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

外貨建て債権・債務については、定期的な為替相場等を把握しております。

投資有価証券については、定期的な時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係るリスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰り計画を作成・更新すると共に、手元流動性を売上高の3ヶ月分相当に維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(5) 信用リスクの集中

当事業年度末日現在における営業債権のうち27.2%が特定の大口顧客に対するものであります。

2 金融商品の時価等に関する事項

当事業年度末日現在における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）を参照ください）。

前事業年度(平成29年2月28日)

	貸借対照表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)現金及び預金	3,773,594	3,773,594	
(2)受取手形	986,160	986,160	
(3)電子記録債権	1,308,769	1,308,769	
(4)売掛金	1,728,537	1,728,537	
(5)投資有価証券	703,082	703,082	
資産計	8,500,144	8,500,144	
(1)支払手形	366,266	366,266	
(2)電子記録債務	1,261,920	1,261,920	
(3)買掛金	520,880	520,880	
負債計	2,149,067	2,149,067	

当事業年度(平成30年2月28日)

	貸借対照表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)現金及び預金	3,857,116	3,857,116	
(2)受取手形	796,021	796,021	
(3)電子記録債権	1,642,085	1,642,085	
(4)売掛金	1,580,936	1,580,936	
(5)投資有価証券	775,936	775,936	
資産計	8,652,095	8,652,095	
(1)支払手形	250,767	250,767	
(2)電子記録債務	1,356,492	1,356,492	
(3)買掛金	511,567	511,567	
負債計	2,118,827	2,118,827	

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1)現金及び預金、(2)受取手形、(3)電子記録債権及び(4)売掛金

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5)投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負債

(1)支払手形、(2)電子記録債務及び(3)買掛金

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成29年2月28日	平成30年2月28日
非上場株式	8,587	8,587

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の当事業年度末日後の償還予定額

前事業年度(平成29年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	3,762,708			
受取手形	986,160			
電子記録債権	1,308,769			
売掛金	1,728,537			

当事業年度(平成30年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	3,849,521			
受取手形	796,021			
電子記録債権	1,642,085			
売掛金	1,580,936			

(有価証券関係)

1 子会社株式

子会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は以下のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
子会社株式	20,000	20,000
計	20,000	20,000

2 その他有価証券で時価のあるもの

前事業年度(平成29年2月28日)

	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	693,648	287,611	406,037
債券			
その他			
小計	693,648	287,611	406,037
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	9,434	11,822	2,388
債券			
その他			
小計	9,434	11,822	2,388
合計	703,082	299,433	403,649

(注) 表中の「取得原価」は、減損処理後の帳簿価額であります。なお、当事業年度において減損の対象となったものはありません。

なお、下落率が30～50%の株式の減損にあつては、個別銘柄毎に、当事業年度における最高値・最安値と帳簿価格との乖離状況等保有有価証券の時価水準を把握すると共に発行体の外部信用格付や公表財務諸表ベースでの各種財務比率の検討等により信用リスクの定量評価を行い、総合的に判断しております。

当事業年度(平成30年2月28日)

	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	775,936	304,026	471,909
債券			
その他			
小計	775,936	304,026	471,909
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式			
債券			
その他			
小計			
合計	775,936	304,026	471,909

(注) 表中の「取得原価」は、減損処理後の帳簿価額であります。なお、当事業年度において減損の対象となったものはありません。  
 なお、下落率が30～50%の株式の減損にあつては、個別銘柄毎に、当事業年度における最高値・最安値と帳簿価格との乖離状況等保有有価証券の時価水準を把握すると共に発行体の外部信用格付や公表財務諸表ベースでの各種財務比率の検討等により信用リスクの定量評価を行い、総合的に判断しております。

### 3 事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度(平成29年2月28日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	8,100	6,600	
債券			
その他			
合計	8,100	6,600	

当事業年度(平成30年2月28日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	575	255	
債券			
その他			
合計	575	255	

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、平成16年7月1日より確定拠出型の退職給付制度を採用しております。

2. 退職給付費用に関する事項

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
確定拠出年金制度への掛金拠出額	92,866千円	94,233千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
繰延税金資産		
賞与引当金	51,085千円	49,023千円
未払事業税等	14,294 "	11,030 "
役員退職慰労引当金	33,897 "	36,957 "
減損損失	28,413 "	28,387 "
その他	44,307 "	45,868 "
繰延税金資産小計	171,998千円	171,267千円
評価性引当額	57,371 "	59,206 "
繰延税金資産合計	114,626千円	112,060千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額	123,516千円	144,404千円
固定資産圧縮積立金	373 "	271 "
繰延税金負債計	123,889千円	144,675千円
繰延税金負債純額( )	9,263千円	32,615千円

(注) 前事業年度及び当事業年度における繰延税金負債の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
流動資産 - 繰延税金資産	92,492千円	87,704千円
固定資産 - 繰延税金資産		
固定負債 - 繰延税金負債	101,755千円	120,319千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
法定実効税率	33.0%	30.8%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.0%	1.1%
住民税均等割等	1.3%	1.5%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.3%	0.4%
評価性引当額の増減額	0.5%	0.5%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.7%	
法人税額の特別控除額	1.1%	0.2%
その他	0.3%	0.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	35.8%	33.0%

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

当社では、大阪府その他の地域において、賃貸用のマンション等(土地を含む)を有しております。

前事業年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は69,893千円(賃貸収益は売上高の不動産賃貸収入に、賃貸費用は売上原価の不動産賃貸原価に計上)であります。

当事業年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は88,173千円(賃貸収益は売上高の不動産賃貸収入に、賃貸費用は売上原価の不動産賃貸原価に計上)であります。

また当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は以下のとおりであります。

(単位：千円)

		前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
貸借対照表計上額	期首残高	737,543	643,178
	期中増減額	94,365	14,981
	期末残高	643,178	628,196
期末時価		1,115,000	1,100,018

- (注) 1 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
- 2 期中増減額のうち、前事業年度の主な減少は、遊休資産から事業資産への振替77,001千円、減価償却費17,364千円であります。  
当事業年度の主な減少は、減価償却費14,981千円であります。
- 3 期末の時価は、主要な物件については、社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づいた金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む)であります。その他の物件については、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づいて自社で算定した金額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に販売部門を統括する営業本部と製造部門を統括する製造管理部を置き、両部門で情報を密に交換し包括的な戦略を立案し、建築関連製品における事業活動を展開しております。また、本社総務部では、不動産賃貸の管理を行っております。

従って、当社は、主たる事業である「建築関連製品」と「不動産賃貸」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「建築関連製品」は、ドアハンガーなどの建築金物、物置などのエクステリア製品やアルミ型材を利用した外装用建材などの製造販売及び取付けを行っております。

「不動産賃貸」は、単身者向け賃貸マンション及び貸店舗を運営しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「2.財務諸表等 重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額に関する情報

前事業年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	損益計算書 計上額(注) 2
	建築関連 製品	不動産 賃貸	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,247,439	156,254	10,403,694		10,403,694
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	10,247,439	156,254	10,403,694		10,403,694
セグメント利益	713,186	69,893	783,079	300,615	482,464
その他の項目					
減価償却費	289,489	20,908	310,397	2,161	312,559

(注) 1. セグメント利益の調整額 300,615千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. セグメント資産については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための検討対象となっていないため記載しておりません。

当事業年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	損益計算書 計上額(注) 2
	建築関連 製品	不動産 賃貸	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,508,755	165,294	10,674,050		10,674,050
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	10,508,755	165,294	10,674,050		10,674,050
セグメント利益	611,323	88,173	699,497	308,162	391,335
その他の項目					
減価償却費	337,125	22,363	359,488	2,161	361,650

(注) 1. セグメント利益の調整額 308,162千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. セグメント資産については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための検討対象となっていないため記載しておりません。

【関連情報】

前事業年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外の国又は地域に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称	売上高	関連するセグメント名
杉田エース株式会社	2,003,360	建築関連製品

当事業年度（自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外の国又は地域に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称	売上高	関連するセグメント名
杉田エース株式会社	2,155,884	建築関連製品

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(持分法損益等)

損益等からみて重要性の乏しい関係会社のみであるため、記載を省略しております。

(関連当事者情報)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
1株当たり純資産額	2,014円89銭	2,053円44銭
1株当たり当期純利益	53円28銭	45円45銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(千円)	312,902	266,895
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	312,902	266,895
普通株式の期中平均株式数(株)	5,872,757	5,872,616

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
純資産の部の合計額(千円)	11,832,944	12,058,944
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)		
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	11,832,944	12,058,944
1株当たり純資産の算定に用いられた普通株式の数(株)	5,872,757	5,872,548

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】  
【有価証券明細表】  
【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)
(投資有価証券)		
その他有価証券		
ユアサ商事株式会社	71,752	268,354
トラスコ中山株式会社	49,600	138,979
杉田エース株式会社	93,800	111,903
株式会社キムラ	175,986	86,233
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	56,590	43,138
株式会社みずほフィナンシャルグループ	186,520	37,192
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	5,000	23,430
阪和興業株式会社	4,277	20,831
大東建託株式会社	1,000	17,750
ネボン株式会社	50,000	14,000
株式会社りそなホールディングス	22,300	13,647
その他(4銘柄)	126,490	9,063
計	843,316	784,523

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却 累計額又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	5,712,982	14,054	30,455	5,696,582	3,877,193	101,037	1,819,389
構築物	225,439			225,439	209,287	6,844	16,151
機械及び装置	2,471,748	95,207	1,830	2,565,126	1,984,922	92,990	580,203
車両運搬具	60,996	1,485	2,385	60,096	57,274	3,987	2,822
工具、器具及び備品	1,451,079	99,233	24,176	1,526,136	1,378,654	107,129	147,481
土地	2,037,501		150	2,037,350			2,037,350
建設仮勘定	58,940		58,940				
有形固定資産計	12,018,689	209,981	117,938	12,110,732	7,507,333	311,989	4,603,398
無形固定資産							
ソフトウェア	248,809	24,258		273,067	197,590	42,230	75,477
電話加入権	1,696			1,696			1,696
その他	20,862			20,862	18,562	503	2,300
無形固定資産計	271,367	24,258		295,625	216,152	42,733	79,473

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	7,319	591		669	7,241
賞与引当金	165,862	159,168	165,862		159,168
役員賞与引当金	20,000	18,500	20,000		18,500
役員退職慰労引当金	110,775	10,000			120,775

(注) 貸倒引当金の「当期減少額その他」のうち402千円は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

a 資産の部

イ 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	7,595
預金及び貯金の種類	
当座預金	3,089,210
普通預金	18,050
外貨建預金	6,818
定期預金	735,000
郵便振替貯金	441
小計	3,849,521
合計	3,857,116

ロ 受取手形

(イ)相手先別内訳

相手先	金額(千円)
児玉株式会社	156,339
株式会社ハイロジック	111,449
野原ホールディングス株式会社	60,945
株式会社川本第一製作所	55,333
安田株式会社	40,627
その他	371,326
合計	796,021

(ロ)期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成30年3月	219,698
" 4月	195,239
" 5月	195,001
" 6月	154,011
" 7月	29,095
" 8月以降	2,974
合計	796,021

八 電子記録債権  
(イ)相手先別内訳

相手先	金額(千円)
杉田エース株式会社	847,389
株式会社クマモト	187,343
帝金株式会社	174,679
積水ハウス株式会社	46,643
ジャパン建材株式会社	43,884
その他	342,144
合計	1,642,085

(ロ)期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成30年 3月	343,081
"    4月	415,807
"    5月	450,965
"    6月	373,665
"    7月	58,565
"    8月以降	0
合計	1,642,085

二 売掛金  
(イ)相手先別内訳

相手先	金額(千円)
杉田エース株式会社	247,737
ユアサ商事株式会社	193,240
帝金株式会社	77,537
住友林業株式会社	72,402
株式会社クマモト	65,876
その他	924,141
合計	1,580,936

(ロ)売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(千円)	当期発生高(千円)	当期末回収高(千円)	当期末残高(千円)	回収率(%)	滞留期間(日) $\frac{(A) + (D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	
1,728,537	12,168,469	12,316,069	1,580,936	88.6	49.6

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記「当期発生高」には消費税等が含まれておりません。

ホ 製品・商品

品目		金額(千円)
製品	建築金物	233,486
	外装用建材	34,021
	エクステリア	383,353
	その他	86,342
小計		737,203
商品		6,609
合計		743,813

ヘ 原材料

品目		金額(千円)
主要材料	建築金物	110,218
	外装用建材	134,402
	エクステリア	71,429
	その他	11,723
小計		327,773
補助材料	建築金物	62,345
	外装用建材	24,524
	エクステリア	12,790
	その他	14,158
小計		113,818
合計		441,592

ト 仕掛品

品目	金額(千円)
建築物	112,628
外装用建材	84,789
エクステリア	75,130
その他	22,558
合計	295,106

チ 貯蔵品

品目	金額(千円)
営業用カタログ	16,866
消耗品	9,672
その他	1,864
合計	28,403

b 負債の部

イ 支払手形

(イ)相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社つばめ急便	44,919
有限会社田中正製作所	35,601
株式会社ヤグチプレス	24,690
株式会社京都日昭	23,735
株式会社UACJ金属加工	16,864
その他	104,954
合計	250,767

(ロ)期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成30年3月	59,527
” 4月	78,750
” 5月	59,730
” 6月	49,542
” 7月	2,111
” 8月以降	1,105
合計	250,767

□ 電子記録債務  
(イ)相手先別内訳

相手先	金額(千円)
月星商事株式会社	212,235
阪和興業株式会社	190,742
三谷伸銅株式会社	107,669
Y K K A P 株式会社	106,008
株式会社カノークス	58,315
その他	681,521
合計	1,356,492

(ロ)期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成30年3月	256,876
” 4月	286,561
” 5月	272,619
” 6月	273,218
” 7月	128,660
” 8月以降	138,556
合計	1,356,492

八 買掛金

相手先	金額(千円)
阪和興業株式会社	33,807
月星商事株式会社	33,461
株式会社三恵ネット	28,555
Y K K A P 株式会社	26,056
伊藤忠メタルズ株式会社	25,468
その他	364,218
合計	511,567

(3) 【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高 (千円)	2,404,528	5,059,712	7,772,429	10,674,050
税引前四半期(当期)純利益 (千円)	34,895	113,343	228,011	398,318
四半期(当期)純利益 (千円)	23,770	75,138	151,621	266,895
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	4.05	12.79	25.82	45.45

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	4.05	8.75	13.02	19.63

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	5月中
基準日	2月末日
剰余金の配当の基準日	2月末日、8月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.daiken.ne.jp/ir/koukoku.html">http://www.daiken.ne.jp/ir/koukoku.html</a>
株主に対する特典	所有株式数1,000株以上の株主に対し、年1回当社取扱い製品を贈呈

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、並びに株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに有価証券報告書の確認書

事業年度（第69期）（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）  
平成29年5月26日近畿財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度（第69期）（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）  
平成29年5月26日近畿財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

（第70期第1四半期）（自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日）  
平成29年7月13日近畿財務局長に提出。

（第70期第2四半期）（自 平成29年6月1日 至 平成29年8月31日）  
平成29年10月12日近畿財務局長に提出。

（第70期第3四半期）（自 平成29年9月1日 至 平成29年11月30日）  
平成30年1月12日近畿財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく  
臨時報告書

平成29年5月31日近畿財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年5月25日

株式会社 ダイケン  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 梅原 隆

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 仲下 寛司

#### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ダイケンの平成29年3月1日から平成30年2月28日までの第70期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ダイケンの平成30年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ダイケンの平成30年2月28日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社ダイケンが平成30年2月28日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。